

現代日本学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
現代日本学学芸分析特論Ⅰ	現代皇室の文化表象	2	茂木 謙之介	後期 火曜日 4講時
現代日本学学芸分析特論Ⅱ	「マンガ」とは何か	2	岩下 朋世	通年集中 その他 連講
現代日本学学芸分析特論Ⅲ	メディア・ミックスの歴史と展開	2	赤井 紀美	後期 水曜日 3講時
現代日本学歴史分析特論Ⅰ	13の瞬間から見る戦後日本史	2	CRAIG CHRISTOPHE	前期 火曜日 3講時
現代日本学総合演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	茂木 謙之介.CRAIG C CHRISTOPHE	前期 月曜日 5講時
現代日本学総合演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	茂木 謙之介.CRAIG C CHRISTOPHE	後期 月曜日 5講時
現代日本学学芸分析研究演習Ⅰ	人物史から考える日本の近代・ 現代	2	雲然 祥子	前期 金曜日 2講時
現代日本学学芸分析研究演習Ⅱ	アダプテーション作品の分析か らみる日本文化	2	赤井 紀美	前期 水曜日 2講時
現代日本学歴史分析研究演習Ⅰ	日本史文献購読・英訳	2	CRAIG CHRISTOPHE	後期 火曜日 3講時

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-OHS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代皇室の文化表象

2. Course Title (授業題目)：Study on representation of Japanese Royal family

3. 授業の目的と概要：本講義では、戦後から現代における皇室の文化表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的にはポピュラーカルチャーを中心に戦後以降の天皇と皇室を描いた様々なイメージを検討し、それらが近現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Post-war Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family in the 2010s and think about the meaning of those images in post-war Japanese society. This course calls for audiences active participation.

5. 学習の到達目標：戦後の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of post-war Japanese royals.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 インTRODククション

第 2 回 天皇制と表象

第 3 回 天皇・皇室表象の“限界”

第 4 回 事例研究 1：「セカイ系」と天皇

第 5 回 事例研究 2：偽史と正史のあいだ

第 6 回 事例研究 3：8 月 15 日の神話叙述

第 7 回 事例研究 4：「J プンガク」の天皇たち

第 8 回 事例研究 5：闘う少女天皇

第 9 回 事例研究 6：皇族萌えの到達点

第 10 回 事例研究 7：生殖と連帯

第 11 回 事例研究 8：「天皇晴れ」と「災害の時代」

第 12 回 事例研究 9：天皇と怪獣

第 13 回 事例研究 10：天皇と新皇

第 14 回 事例研究 11：妖怪と天皇的なもの

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) II

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：岩下 朋世

コード：LM98807, 科目ナンバリング：LJS-OHS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「マンガ」とは何か

2. Course Title (授業題目)：What Is "Manga"

3. 授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn about the definition, history, and narrative of manga. Manga is a very popular culture in Japan. Because of this, we tend to think that we know something about "manga". However, it is actually very difficult to answer the question, "What is manga?". To illustrate this point, we take a variety of concrete examples, both old and new. Participants are encouraged to actively participate in discussions.

5. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understand the history and expression of manga. Learn the skills to analyze manga.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

内容及び進捗予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 「マンガ」のさまざまな定義

第3回 「北斎漫画」はマンガか？

第4回 コマと物語

第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に

第6回 マンガと出版文化①

第7回 マンガと出版文化②

第8回 手塚治虫と少女マンガ

第9回 少女マンガにおける異性装

第10回 マンガにおけるイメージと言葉①

第11回 マンガにおけるイメージと言葉②

第12回 萩尾望都「半神」を読む

第13回 マンガを読む-受講者による発表①

第14回 マンガを読む-受講者による発表②

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅲ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LM23302, 科目ナンバリング：LJS-OHS612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディア・ミックスの歴史と展開
2. Course Title (授業題目)：History and Development of the Media Mix
3. 授業の目的と概要：メディア・ミックスとは、複数の媒体を組み合わせて展開する広告戦略や、小説やマンガ、ゲームなどのコンテンツを異なるメディアへと展開させる手法の事を指す。現在の日本では恒常的にメディア・ミックスが行われているが、実は江戸時代からこうした手法は行われてきた。本講義では、日本のメディア・ミックスの歴史について江戸時代から現代までの流れについて学び、日本学研究のための多角的な視点を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Media mix refers to an advertising strategy that combines multiple media, or a method of developing content such as novels, manga, and games across different media platforms. In Japan today, media mix has been a regular practice, but in fact, it has been practiced since the Edo period (1603-1868). In this class, students will learn about the history of media mix in Japan from the Edo period to the present, and develop a multifaceted perspective for Japanese Studies.
5. 学習の到達目標：江戸時代以降の日本のメディア・ミックスの歴史と展開について理解する。
日本学研究のための多角的な視座を獲得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the history and development of media mix in Japan since the Edo period.
Acquire a multifaceted perspective for Japanese Studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：メディア・ミックスとアダプテーション
 - 第3回：江戸の社会と出版文化
 - 第4回：演劇と小説、絵画の交錯
 - 第5回：浮世絵と広告
 - 第6回：歌舞伎とファンカルチャー
 - 第7回：歌舞伎と寄席芸
 - 第8回：近代以降のメディアの変遷
 - 第9回：明治時代の出版メディアと演劇・映画
 - 第10回：大正時代のメディア・ミックス①
 - 第11回：大正時代のメディア・ミックス②
 - 第12回：昭和戦前・戦中期のメディア・ミックス
 - 第13回：戦後の展開
 - 第14回：現代のメディア・ミックス
 - 第15回：この授業のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
出席・授業参加度（50%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析特論 I / Japanese Studies History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM12301, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：13 の瞬間から見る戦後日本史

2. Course Title (授業題目) : Postwar Japanese History as Seen through 13 Moments

3. 授業の目的と概要：この授業では、13 の重要な瞬間の検討を通じて、第二次世界大戦の終結から現在までの日本の歴史を探究する。災害、世界との新たな関わり、政治・経済の変化、その他の注目すべき出来事を含め、新しい視点から戦後を概観し、戦後の社会と政治の根底にある連続性と非連続性の両方の線、そして戦後の世界秩序における日本の位置を規定した地域と世界のつながりを浮き彫りにします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explores the history of the period from the end of the Second World War to the present in Japan through an examination of 13 important moments. Including disasters, new engagements with the world, political and economic shifts, and other notable events, this class will provide an overview of the postwar from a new perspective, highlighting the lines of both continuity and discontinuity that underlie postwar society and politics, as well as the regional and global connections that have defined Japan's place in the postwar world order.

5. 学習の到達目標：このクラスの主な目的は、戦後日本についての理解を深めるとともに、個々の出来事をより長い歴史的展開と結びつける手段を紹介することである。また、このテーマに関する英語での研究知識も身につけます。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The primary goals of the class are to build an understanding of the Japanese postwar among students while also demonstrating the means by which to connect individual moments with longer historical developments. Students will also gain familiarity with English-language research on the topic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：戦後日本史：概論

第3回：1945年8月15日

第4回：1946年10月21日

第5回：1947年1月31日

第6回：1950年6月25日

第7回：1960年6月15日

第8回：1964年10月10日

第9回：1971年4月10日

第10回：1972年8月23日

第11回：1985年9月22日

第12回：1989年1月7日

第13回：1995年1月7日・3月20日

第14回：1997年7月7日

第15回：2001年3月11日

8. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Readings will be distributed for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

This class is taught in English. All readings are in English, but assignments can be submitted in English or Japanese.

このクラスは英語で行われます。リーディングはすべて英語で行われますが、課題の提出は英語または日本語で可能です。

科目名：現代日本学総合演習 I / Japanese Studies (Comprehensive Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM11501, 科目ナンバリング：LJS-0HS607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第 3 回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第 4 回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第 5 回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第 6 回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第 7 回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第 8 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第 9 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第 10 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第 11 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第 12 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第 13 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第 14 回：日本学の課題についての総合討論①

第 15 回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM21501, 科目ナンバリング：LJS-0HS608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学研究の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第1回：はじめに—日本学とは何か—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I / Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：雲然 祥子

コード：LM15202, 科目ナンバリング：LJS-0HS609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物史から考える日本の近代・現代
2. Course Title (授業題目)：A Study of Modern Japanese History and Social Situation from the Perspective of a Life of a Person
3. 授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や業績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。
それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史料資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When discussing and understanding Japanese history and social situation, one must always take into account the relevant background. In this course, the purpose is to study and understand about the history and social situation of modern Japan, with the case of a person's life (history and activities).
5. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。
様々な史料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。
現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire historical knowledge, thinking and express ability.
To understand the social situation by analyzing and reading various historical materials.
To discover issues in modern society and organize opinions in appropriate words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項
 - 第 3 回 ケーススタディ (事例報告①)
 - 第 4 回 受講生による発表
 - 第 5 回 受講生による報告・議論①
 - 第 6 回 受講生による報告・議論②
 - 第 7 回 受講生による報告・議論③
 - 第 8 回 受講生による報告・議論④
 - 第 9 回 ケース・スタディ (事例報告②)
 - 第 10 回 受講生による報告・議論⑤
 - 第 11 回 受講生による報告・議論⑥
 - 第 12 回 受講生による報告・議論⑦
 - 第 13 回 受講生による報告・議論⑧
 - 第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ
 - 第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて”
8. 成績評価方法：
演習中の課題 (20%)、報告・討論 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：史料・文献などを利用し、授業で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析研究演習Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LM13201, 科目ナンバリング：LJS-OHS613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アダプテーション作品の分析からみる日本文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Culture through Analysis of Adapted Works
3. 授業の目的と概要：アダプテーションとは、もとにある作品を異なる形に移し替えて新たな作品を作ることを指す。日本におけるアダプテーションの歴史は古く、現代に至るまで盛んに行われている。この授業では、日本におけるアダプテーションの歴史を踏まえ、主に近世後期から近現代におけるアダプテーション作品を取り上げて受講生の興味関心に従い論じる。作品の分析を通して日本文化の特性を学ぶとともに、その作品が生まれたそれぞれの時代背景について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Adaptation refers to the process of creating a new work by transferring the original work into a different form. Adaptation in Japan has a long history and has been actively practiced up to the present day. In this class, based on the history of adaptation in Japan, we will discuss adaptation works mainly from the late modern period to the modern period according to the interests of the students. Through the analysis of these works, students will learn about the characteristics of Japanese culture and gain an understanding of the historical backgrounds in which these works were created.
5. 学習の到達目標：日本の文化と歴史について理解する。
作品を分析するための基本的なスキルや、様々な文献を読解する力を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand Japanese culture and history.
Learn basic skills for analyzing works and reading a variety of literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：アダプテーションの歴史と日本文化
第3回：課題設定、文献調査の方法について
第4回：担当者による発表と質疑応答①【近世後期の作品1】
第5回：担当者による発表と質疑応答②【近世後期の作品2】
第6回：担当者による発表と質疑応答③【近世後期の作品3】
第7回：担当者による発表と質疑応答④【近代の作品1】
第8回：担当者による発表と質疑応答⑤【近代の作品2】
第9回：担当者による発表と質疑応答⑥【近代の作品3】
第10回：担当者による発表と質疑応答⑦【近代の作品4】
第11回：担当者による発表と質疑応答⑧【現代の作品1】
第12回：担当者による発表と質疑応答⑨【現代の作品2】
第13回：担当者による発表と質疑応答⑩【現代の作品3】
第14回：担当者による発表と質疑応答⑪【現代の作品4】
第15回：これまでの発表のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
授業中の発表 (40%)、出席・授業参加度 (20%)、レポート (40%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I / Japanese Studies History (Research Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22302, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史文献購読・英訳

2. Course Title (授業題目) : Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing.

5. 学習の到達目標：将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

8. 成績評価方法：

翻訳・出席 [70%] 提出翻訳 [30%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.